

## 「樫の木の下で (4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

シラカシの果実(ドングリ)は、まだ枝についている時はつやもあって色も美しい。帽子(殻斗)も完全で、子どもたちの目から見ても、実に魅力的である。



一つの枝(梢)に4~5個もついていることもあり、手折って水にさし教室に置いておくと、しばらくの間観察することができる。



しかし、地面に落ちた状態では、なかなか完全な果実は見つからない。ほとんどのものは、ドングリ(種子に相当する部分)と帽子(殻斗)が分離してしまっている。枝になっていた時の「組み合わせ」もまったくわからない。それでも、子どもたちは「帽子付き・未使用新品」を必死で探そうとする。一本のシラカシの下には、何千個も落ちているので、楽しい活動だ。



「枝に完全なドングリがあるらしい!」こういう情報は、あっという間に伝播する。しまいには、シラカシの幹を思い切り揺すって落とそうとする子どもも現れた。しかしゾウでもない限り、幹は簡単には揺れないし、ドングリも落ちてこない。



それでもしばらく樫の木の下を「搜索」するうちに、帽子付きの完全品が続々と見つかった。色からすると、枝から落ちて数日たったもののような。枝に帽子(殻斗)だけが残っていることはほとんどないので、シラカシのドングリは殻斗と一緒に落下してくるようだ。

上写真で子どもが指さしているものが面白い。「先生、先生、ほら、ちっちゃいの。ドングリの赤ちゃんかな?」この推理はおよそ当たっている。ブナ科の果実(ドングリ)は、小さい時は殻斗がドングリ全体を覆っていて、成長につれて覆われる面積が小さくなる。小さなものは、成長せずに落下した「不良品」ということになる。最終的に落下と同時に分離して、コロコロころがって、発芽すべき場所に移動するのだろう。